

女子聖から東京女子大学へ

Be a Messenger



Love God and Serve His People

女子聖学院 中学校
高等学校

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2

TEL 03-3917-5377 (広報室)

E-mail koho@joshiseigakuin.ed.jp



Tokyo Woman's Christian University

東京女子大学



Love God and Serve His People

女子聖学院 中学校
高等学校



東京女子大学と女子聖学院が『高大連携協定』を結びました

- 1918 東京女子大学創立 その数年前より女子聖学院創立者バーサ・F・クローソン先生が大学創立促進委員として関わる
- 1988 東京女子大学より指定校推薦枠をいただく
- 2021 高大連携協定により関係強化 指定校推薦枠4名から10名に



高大連携調印式が行われました

この度は女子聖学院と東京女子大学が高大連携協定を結ぶことができましたことを女子聖学院の卒業生として心から嬉しく思います。女子聖学院と東京女子大学は大学創立の準備段階から深いつながりがある

ります。東京女子大学は1918年に6つの北米キリスト教派協力のもとに創立されました。創立に際して、女子聖学院の創立者B.F. クローソン院長(当時)は大学創立促進委員会の委員として、同様に女子聖学院のM.F. レディアード宣教師(当時)は東京女子大最初の理事会の理事として、それぞれ重要な役割を担っていただきました。また当時、週一回の「聖書」の授業を聖学院中学校初代校長 石川角次郎先生がご担当くださっています。このように女子聖学院は東京女子大学にとって産みの親のミッションスクールの一つであり、大学創立以来多くの女子聖学院卒業生が本学で学んでこられました。今後中高生と大学生の交流や大学行事への参加、出張講義その他様々な仕方を通して、両者のつながりをより深めていけたらと期待しています。私の今まで関わった女子聖学院出身の学生たちは、積極的に物事に取り組み充実した大学生活を過ごされ、誠実で明るく思いやりのある学生ばかりでした。女子聖学院の皆様との新しいすてきな出会いを楽しみにしています。

東京女子大学
大学宗教委員長 キリスト教センター長
現代教養学部 人文学科教授
佐野 正子 先生
女子聖学院 高32回卒



女子聖から
東京女子大学へ
Be a Messenger



「誰かの助けになりたい」 想いがモチベーション

社会人3年目のUさんは、海外への進出を目指す企業に融資を行って支援する政府系金融機関で採用業務を担当。営利目的を最優先しない企業で、誰かの役に立つ仕事をしたいと、現在の職業に就かれました。世界のインフラ分野で活躍を目指す日本企業を支援することは、日本経済発展の貢献にも繋がるとUさんは言います。

東京女子大学の国際社会学科へは、世界に視野を広げる学びがしたいという思いから進学され、女子聖学院と東京女子大学とは同じミッション校同士、毎日参加できる礼拝があるなど、実際に1日の過ごし方が似ている、とあらためて実感したと言います。Uさんは大学では文化祭実行委員として活躍。女子聖時代にはバレーボール部のキャプテンを務め、生徒会でも活躍されていました。生徒、学生が主体的に活躍できるのも2つの学校に共通しており、いつも「誰かの助けになりたい」という想いがモチベーションとなっていたと振り返っていました。女子聖学院から東京女子大へそして社会人としてその想いが貫かれている生き方が輝いていました。

N.Uさん

女子聖学院 高67回卒

現代教養学部 国際社会学科国際関係専攻 卒業



S.Hさん

女子聖学院 高69回卒

現代教養学部 人文学科 哲学専攻 4年

留学生バディと難民支援の活動

ボルダリングとクロスバイクが最近の趣味というHさんは好奇心が旺盛。女子聖時代のアメリカ・ペンシルベニア州でのホームステイ、オーストラリアのターム留学を通して、海外の人たちとの交流に一貫して興味を持ち続けています。実際、東京女子大では『留学生バディ』という制度に応募して韓国からの留学生の学生生活をサポートしています。

2019年には大学の国際交流センターの支援で文部科学省のトビタテ!留学JAPANの奨学生として、9ヶ月間のアメリカ留学を体験しました。この留学で出会った学友とのつながりは今後も大変貴重なもの、と語っています。そのほか、難民の郷土料理を大学の学食で提供し、その収益を寄付するMeal For Refugees(M4R)の活動を行う学生団体で難民支援を行ってきました。留学生との出会いや難民支援を通して、いつか海外で現地の人に日本語を教える仕事をしたいとの思いも与えられているとのこと。卒業後は海外にも拠点がある化学業界の大手企業へ就職が決まっています。今後もこれまで培われたコミュニケーション力を武器に国内外でご活躍されることでしょう。

「尊敬できる友人が多い」が共通点

マス・コミュニケーション論を専門とするゼミに所属し、当時のトランプ政権などの政治報道の娯楽化に関して卒業論文を書いたというMさん。ジェンダーや女性学を学ぶ多くの興味深い授業が東京女子大にはあり、アニメに登場するプリンセスやCMに描かれる女性像を通じて、放映当時の時代性や背景などを学ぶ「ジェンダーとメディア」という授業がとても印象に残っているとのこと。ゼミでの大変丁寧な指導の下、時間をかけて卒論を書いた経験は、就職活動や、社会に出た今、大いに役立っているそうです。

また、東京女子大には学ぶ意欲が強く、一所懸命で、尊敬できる友人が多いこと、支え合う文化が根付いていること、そして自立した女性の育成を目指していることなどが、女子聖学院と共通していたといいます。更には女子聖学院中高での6年も、東京女子大の4年間も人前で発表する機会が多くあり、そうした機会の積み重ねは、損害保険会社の営業として働く力に確実に繋がっていると語ってくれました。



M.Uさん

女子聖学院 高66回卒

現代教養学部 人間科学科コミュニケーション専攻 卒業

英語を学ぶことの楽しさがテーマ

Rさんは女子聖のセブ島マンツーマン語学留学1期生。中3の時、こんな南国で大好きな英語を学べるなんて夢のようだと、すぐに参加を決めたそうです。高1の時はアメリカ・ペンシルベニア州でのホームステイに参加。とにかく英語が科目としても、またコミュニケーションツールとしても大好きで、2年次に留学が必須である東京女子大の国際英語学科に指定校推薦で進学。もちろん5つ年上のお姉様が先に入学していたことも理由の1つです。これまでで特に印象に残っているのは「グローバル人材論」という授業。国際的な活躍をしている人が一人ずつ毎授業ごとに紹介され、その行動力には大いに刺激を受けたそうです。

女子聖時代は、誰もやらないなら私がやると合唱コンクールの指揮者に立候補し、高校では運動会の幹部にも立候補し、その重責を務めました。そうした生徒主体の行事活動は、就活のエントリーシートに書くほど社会に出てからも通用するかけがえのない経験であったと言います。将来についてはまだ迷っているというRさんですが、英語を学ぶ楽しさを伝える仕事に就きたい、とビジョンを聞かせてくれました。



姉妹で東京女子大へ

R.Uさん

女子聖学院 高71回卒

現代教養学部 国際英語学科 3年

